

ダニエル書

第一章

一 ユダの王エホヤキムの治世の第三年にバビロンの王ネブカデネザル、エルサレムにきたりて之を
 二 攻圍みしに 主ユダの王エホヤキムと神の家の器具幾何とをかれの手にわたしたまひければ
 三 則ちこれをシナルの地に携へゆきて己の神の家にいたりその器具を己の神の庫に藏めたり 茲に王寺人の長
 四 アシペナズに命じてイスラエルの子孫の中より王の血統の者と貴族たる者幾何を召寄しむ 即ち身に疵なく
 五 容貌美しくして一切の智慧の道に穎く知識ありて思慮深く王の宮に侍るに足る能幹ある少き者を召寄しめこれに
 六 カルデヤ人の文學と言語とを學ばせんとす 是をもて王は命を下して日々に王の用ゐる 饌と王の飲む酒とを
 七 彼らに與へしめ三年の間かく彼らを養ひ育てしめんとす是その後に彼らをして王の前に立ことを得せしめんとて
 八 なり 是等の中にユダの人ダニエル、ハナニヤ、ミシヤエル、アザリヤありしが 寺人の長かれらに名をあた
 九 へてダニエルをベルテシヤザルと名けハナニヤをシヤデラクと名けミシヤエルをメシヤクと名けアザリヤを
 十 アベデネゴと名く

八 然るにダニエルは王の用ゐる饌と王の飲む酒とをもて己の身を汚すまじと心に思ひさだめたれば己の身を
 九 汚さざらしめんことを寺人の長に求む 以前よりエホバ、ダニエルをして寺人の長の慈悲と寵愛とを蒙らしめ
 一〇 たまふ 是において寺人の長ダニエルに言けるは吾主なる王すでに命をくだして汝らの食物と汝らの飲物とを
 預たしめたまへば我かれを畏る恐くは彼なんぢらの面の其同輩の少者等と異にして憂色あるを見ん然る時は汝ら

イ王下二四・一 代下 八制一〇・一〇、一一 二代下三六・七 へ利二四・一九、二〇 一〇・八但一・一九 又但四・八、五・一一 ヲ制三九・二一 詩一
 三六・六 三二 賽一一・一一 水王下二〇・一七、 ト徒七・二二 一〇・八但一・一九 又但四・八、五・一一 ヲ制三九・二一 詩一
 口耶二七・一九、二〇 亞五・一一 一八 賽三九・七 二四・一七 二四・一七 〇六・四六 箴一六
 七

ワ王上三・二二 雅一 ヨ民二・二六 代下二 夕創四一・四六 但一 ソ但六・二八、一〇・一 一 但五・七
五、一七 六、五 但五・二二、 五 詩二〇・二、一 一 帖六・一 但六・二八 一 但五・七
カ徒七・二二 二二、二四、一〇・一 一 王上二〇・一 二八 一 帖六・一 但六・二八 一 但五・七
ナ創四一・八 出七。

二 のために我首王の前に危からん 寺人の長はメルザル官をしてダニエル、ハナニヤ、ミシヤエル及びアザリヤ
三 を監督らせ置たればダニエル之に言けるは 請ふ十日の間僕等を験したまへ即ち我らには菜蔬を與へて食せ
三 水を與へて飲せよ 而して我らの面と王の饌を食ふ少者どもの面とを較べ見汝の視るところにしたがひて僕等
を待ひたまへと

一四 是において彼この事を聴いれ十日のあひだ彼らを験しけるが 十日の後にいたりて見るに王の饌を食へ
一五 諸の少者よりも彼らの面は美しくまた肥え膩つきてありければ メルザル官すなはち彼らの分なる饌と彼ら
一六 の飲べき酒とを撤きさりて菜蔬をこれに與へたり

一七 この四人の少者には神知識を得させ諸の文學と智慧に穎からしめたまへりダニエルはまた能く各種の異象
一八 と夢兆を曉る 王かねて命をくだし少者どもを召いる、迄に經べき日を定めおきしがその日數も過たるに因て
一九 寺人の長かれらを引てネブカデネザルの前にいたりければ 王かれらと言談へり彼ら一切の中にはダニエル、

二〇 ハナニヤ、ミシヤエル、アザリヤに比ぶ者あらざりければこの四人は王の前に侍れり 王かれらに 諸の事を詢
二一 たづね見に彼らは智慧の學においてその全國の博士と法術士に愈ること十倍なり 二二 ダニエルはクロス王の元年
までありき

第二章

一 ネブカデネザルの治世の二年にネブカデネザル夢を見それがために心に思ひなやみて復睡ること
二 能はざりき 是をもて王は命を下し王のためにその夢を解せんとして博士と法術士と魔術士とカル
三 デヤ人とを召しめたれば彼ら來りて王の前に立つ 王すなはち彼らにむかひ我夢を見その夢の義を知んと心に

四 思ひなやむと言ければ 四 カルデヤ人等スリア語をもて王に申しけるは願くは王長壽かれ請ふ僕等にその夢を語りたまへ我らその解明を進めたてまつらんと 五 王こたへてカルデヤ人に言けるは我すでに命を出せり汝等もしその夢とこれが解明とを我に示さざるにおいては汝らの身は切裂れ汝らの家は厠にせられん 六 又汝らもしその夢とこれが解明を示さば贖物と賞賚と大なる尊榮とを我より獲ん然ばその夢と之が解明を我に示せ 七 彼らまた對へて言けるは願くは王僕どもにその夢を語りたまへ然ば我らその解明を奏すべしと 八 王こたへて言けるは我あきらかに知る汝らは吾命の下りしを見るが故に時を延さんことを望むなり 九 汝らもしその夢を我に示さずば汝らを處置するの法は只一のみ汝らは相語らひて虚言と妄誕なる詞を我前にのべて時の變るを待んとするなり汝ら今先その夢を我に示せ然すれば汝らがその解明をも我にしめし得ることを我しらんと 一〇 カルデヤ人等こたへて王の前に申しけるは世の中には王のその事を示し得る人一箇もなし是をもて王たる者主たる者君たる者等の中に斯る事を博士または法術士またはカルデヤ人に問たづねし者絶てあらざるなり 一一 王の問たまふその事は甚だ難し肉身なる者と共に居ざる神々を除きては王の前にこれを示すことを得る者無るべしと 一二 斯りしかば王怒を發し大に憤りバビロンの智者をことごとく殺せと命じたり 一三 即ち此命くだりければ智者等は殺されんとせり又ダニエルとその同僚をも殺さんともめたり 一四 茲に王の侍衛の長アリオク、バビロンの智者等を殺さんとして出きたりければダニエル遠慮と智慧とをもて之に應答せり 一五 すなはち王の高官アリオクに對へて言けるは王なにとて斯すみやかにこの命を下したまひしやとアリオクその事をダニエルに告しらせられたれば 一六 ダニエルいりて王に乞求めて言ふ暫くの時日を賜へ然ばその

イ王上一・三一 但三 口王下一〇・二七 確 二但二・四八、五・一七 卜但二・二八、五・一一
 九、五・一〇、六・ 六・一一但三・二九 六弗五・一六 六、二二 八但五・一六 へ帖四・一一 七創三七・三六

リ太一八・一九 又民二二・六 伯三三

ノ但四・三、三四、六、一・三三、三三
二六、七、一四、一・二二 賽前二五、
二七 米四・七 路 二四
ツ詩二・九 賽六〇・ 一三五、二八・六
一・三五、二八・六
ナ徒一〇・二五、一四 ム但二・二八
ウ但二・六
ラ朝六・一〇
ノ但三・一二
オ帖三・一九、二二、
三・二二
ク但四・一、六・二五
ヤ耶三九・二三 歌
一三・二五

四三 らん此國は他の民に歸せず却てこの諸の國を打破りてこれを滅せん是は立ちて永遠にいたらん かの石の人手
によらずして山より鑿れて出で鐵と銅と泥土と銀と金とを打碎きしを汝が見たまひしは即ちこの事なり大御神
この後に起らんとするの事を王に知らせたまへるなりその夢は眞にしてこの解明は確なり

四六 是においてネブカデネザル王は俯伏てダニエルを拜し禮物と香をこれに獻ぐることを命じたり 而して
四七 王こたへてダニエルに言けるは汝がこの秘密を明かに示すことを得たるを見れば誠に汝らの神は神等の神王等の

四八 主にして能く秘密を示す者なりと かくて王はダニエルに高位を授け種々の大なる賜物を與へてこれをバビ
四九 ロン全州の總督となしまたバビロンの智者等を統る者の首長となせり 王またダニエルの願によりてシヤデラ

クとメシヤクとアベデネゴを擧てバビロン州の事務をつかさどらしめたりダニエルは王の宮にをる

一 茲にネブカデネザル王一箇の金の像を造れりその高は六十キュビトその横の廣は六キュビトなり

二 茲にネブカデネザル王一箇の金の像を造れりその高は六十キュビトその横の廣は六キュビトなり

三 是においてその州牧將軍方伯刑官庫官法官士師および州郡の諸有司等はネブカデネザル王の立たる像

四 の告成禮に臨みそのネブカデネザル王の立たる像の前に立り 時に傳令者大聲に呼はりて言ふ諸民諸族諸音

五 よ汝らは斯命ぜらる 汝ら喇叭簫琵琶琴瑟などの諸の樂器の音を聞く時は俯伏しネブカデネザル王の

六 立たまへる金像を拜すべし 凡て俯伏て拜せざる者は即時に火の燃る爐の中に投こまるべしと 是をもて

七 諸民等喇叭簫琵琶琴瑟などの諸の樂器の音を聞くや直に諸民諸族諸音みな俯伏しネブカデネザル王の立たる

第三章

金像を拜したり

九八 ハ その時或カルデヤ人等進みきたりてユダヤ人を譏奏せり 九 即ち彼らネブカデネザル王に奏聞して言ふ

一〇 願くは王長壽かれ 一〇 王よ汝は命を出して宣へり凡て喇叭簫琵琶琴瑟箏策などの諸の樂器の音を聞く者は

一一 みな俯伏しこの金像を拜すべし 一一 凡て俯伏し拜せざる者はみな火の燃る爐の中に投こまるべしと 一二 此に汝が

一二 立てバビロン州の事務を司どらせ給へるユダヤ人シヤデラク、メシヤクおよびアベデネゴあり王よ此人々は汝を

尊ばず汝の神々にも事へず汝の立たまへる金像をも拜せざるなりと 一三 是においてネブカデネザル怒りかつ憤りてシヤデラク、メシヤクおよびアベデネゴを召寄よと命じければ

一四 即ちこの人々を王の前に引きたりしに 一四 ネブカデネザルかれらに問て言けるはシヤデラク、メシヤク、アベデネ

一五 ゴよ汝ら我神に事へすまた我が立たる金像を拜せざるは是故意にするなるか 一五 汝らもし何の時にもあれ喇叭簫

琵琶琴瑟箏策などの諸の樂器の音を聞く時に俯伏し我が造れる像を拜することを爲ば可し然ど汝らもし拜する

一六 ことをせずば即時に火の燃る爐の中に投こまるべし何の神か能く汝らをわが手より救ひいだすことをせん 一六 シ

一七 ヤデラク、メシヤクおよびアベデネゴ對へて王に言けるはネブカデネザルよこの事においては我ら汝に答ふるに

一七 及ばず 一七 もし善らんには王よ我らの事ふる我らの神我らを救ふの能あり彼その火の燃る爐の中と汝の手の中よ

一八 り我らを救ひいださん 一八 假令しからざるも王よ知たまへ我らは汝の神々に事へすまた汝の立たる金像を拜せじ

一九 是においてネブカデネザル怒氣を充しシヤデラク、メシヤクおよびアベデネゴにむかひてその面の容を變

二〇 へ即ち爐を常に熱くするよりも七倍熱くせよと命じ 二〇 またその軍勢の中の力強き人々を喚てシヤデラク、メシ

イ但六・一二 八但二・四九 一三・九 太一〇・一九 詩三四・七 但三・ 詩三四・七、八 耶 但六・二六
口但二・四、五・一〇、 二出二二・一三 へ出五・二 王下二八 二八 一七・七 但六・二 七但六・二七
六・六、二二 六出三二・三三 路 三・三五 三・三五 三・三五 又來一一・三四 二、二三 二、二三 二、二三
カ但三・四、六・二五

ニ ヤクおよびアベデネゴを縛りてこれを火の燃る爐の中に投こめと命じたり 是をもて此人々はその褲子羽織
ニ 外套およびその他の服装を着たるまゝにて縛られて火の燃る爐の中に投こまれたりしが 王の命はなはだ急に
して爐は甚だしく熱しむれば彼のシヤデラク、メシヤクおよびアベデネゴを引抱へゆける者等はその火焰に焼
ころされたり 又此シヤデラク、メシヤク、アベデネゴの三人は縛られたるまゝにて燃る爐の中に落いりぬ
二四 時にネブカデネザル王驚きて急忙しくたちあがり大臣等に言ふ我らは三人を縛りて火の中に投いれざりし
二五 や彼ら王にこたへて言ふ王よ然りと 王また應へて言ふ今我見るに四人の者縲綆解て火の中に歩みをり凡て何
二六 の害をも受ずまたその第四の者の容は神の子のごとしと ネブカデネザルすなはちその火の燃る爐の口に進み
よりて呼て言ふ至高神の僕シヤデラク、メシヤク、アベデネゴよ汝ら出きたれと是においてシヤデラク、メシ
ニ七 ヤクおよびアベデネゴその火の中より出きたりしかば 州牧將軍方伯および王の大臣等集りて此人々を
見たり此人々の身は火もこれを害する力なかりきまたその頭の髪は燥けずその衣裳は傷ねず火の臭氣もこれに
付ざりき

二八 ネブカデネザルすなはち宣て曰くシヤデラク、メシヤク、アベデネゴの神は讚べき哉彼その使者を遣りて己
を頼む僕を救へりまた彼らは自己の神の外には何の神にも事へずまた拜せざらんとて王の命をも用ひず自己の身
二九 をも捨てんとせり 然ば我今命を下す諸民諸族諸音の中凡てシヤデラク、メシヤクおよびアベデネゴの神を罵る
者あらばその身は切裂れその家は厠にせられん其は是のごとくに救を施す神他にあらざればなりと かくて王
三〇 またシヤデラク、メシヤクおよびアベデネゴの位をすゝめてバビロン州にをらしむ

二一 第四章 一 ネブカデネザル王全世界に住める諸民 諸族 諸音に諭す願くは大なる平安汝らにあれ 至高神

夕但一・二・三、一・二、ソ但二・二二、四・二、五・八、一五、
五・三二、五・二一、ネ但四・八、
ラ母後一八・三二耶、
ウ但二・三八、
オ但五・二一、
マ詩八三・一八、但四、
フ太二一・二五、
路、
七、
五・三二、五・二一、
ネ但四・八、
二九・七、
中耶二七・六一八、
ク但四・三三、五・二一、
一七・三三、
一五・二八、二一、
レ詩九・二六、
ツ創四一・八、一五但、
ナ但四・八、
ム但四・一〇一、二二、
ノ但四・二三、
ヤ詩一〇六・二〇、
ケ耶二七・五、
コ彼前四・八

一七 稟て七の時を經ん 一七 この事は警寤者等の命によりこの事は聖者等の言による是至高者人間の國を治めて自己の

意のまゝにこれを人に與へまた人の中の最も賤き者をその上に立たまふといふ事を一切の者に知しめんがためな

一八 我ネブカデネザル王この夢を見たりベルテシヤザルよ汝その解明を我に述よ我國の智者は孰も皆その解明

を我に示すことを得ざりしが汝は之を能せん其は汝の裏には聖神の靈やどればなりと

一九 その時ダニエル又の名はベルテシヤザルといふ者暫時の間驚き居り心に深く懼れたれば王これに告て言

りベルテシヤザルよ汝この夢とその解明のために懼るゝにおよばすとベルテシヤザルすなはち答へて言けらく我

二〇 主よ願くはこの夢汝を惡む者の上にかゝらん事を願くは此解明汝の敵にのぞまんことを 汝が見たまひし樹

すなはちその長じて強くなり天に達するほどの高となりて地の極までも見えわたり その葉は美しくその果は

二一 饒にして一切の者その中より食を得またその下に野の獸臥しその枝に空の鳥棲たる者 王よ是はすなはち汝な

り汝は長じて強くなり汝の勢ひは盛にして天におよび汝の權は地の極にまでおよべり 王また一箇の警寤者

二三 一箇の聖者の天より下りて斯言ふを見たまへり云くこの樹を伐たふして之をそこなへ但し其根の上の斬株を地に

遺しおき鐵と銅の索をかけて之を野の草の中にあらしめよ是は天より下る露に濡れ野の獸とその分を同じうし

二四 て七の時を經ん 二四 王よその解明は是の如し是即ち至高者の命にして王我主に臨まんとする者なり 即ち汝は

逐れて世の人と離れ野の獸とともに居り牛のごとくに草を食ひ天よりくだる露に濡れん是の如くにして七の時を

二六 經て汝つひに知ん至高者人間の國を治めて自己の意のまゝに之を人に與へ給ふと 又彼らその樹の根の上の斬

二七 株を遺しおけと言たれば汝の國は汝が天は主たりと知にいたる時まで汝を離れん 然ば王よ吾諫を容れ義を

ツ母後九・七 代下一 ネ耶五二・一九 但一 ラ但四・三一
 五・一六 耶二七・ 二一 ム但五・九
 七但五・二一、二二、二三 ナ默九・二〇 ウ察五・二七
 申魯二・一〇 ノ但二・二、四・六
 才察四七・一三 マ但三・一
 ク但六・二
 九、一八
 ケ但五・六
 フ但三・四、三・九
 エ但五・二
 コ但二・四八、四・八、
 テ但五・二
 ア但四・九
 サ但一・七
 キ但六・三

第五章

一 ベルシヤザル王その大臣一千人のために酒宴を設けその一千人の者の前に酒を飲たりしが 酒
 の進むにいたりてベルシヤザルはその父ネブカデネザルがエルサレムの宮より取きたりし金銀の器
 を携へいたれと命ぜり是王とその大臣および王の妻妾等みな之をもて酒を飲んとてなりき 是をもてそのエル
 サレムなる神の宮の内院より取たりし金の器を携へいたりければ王とその大臣および王の妻妾等これをもて飲め
 り すなはち彼らは酒をのみて金銀銅鐵木石などの神を讚たへたりしが
 四 その時に人の手の指あらはれて燭臺と相對する王の宮の粉壁に物書り王その物書る手の末を見たり 是
 七 において王の愉快なる顔色は變りその心は思ひなやみて安からず腿の關節はゆるみ膝はあひ撃り 王すなはち
 大聲に呼はりて法術士カルデア人卜筮師等を召きたらしめ而して王バビロンの智者等に告て言ふこの文字を讀
 八 みその解明を我に示す者には紫の衣を衣せ頸に金の鏈をかけさせて之を國の第三の牧伯となさんと 王の智者
 九 等は皆きたりしかどもその文字を讀こと能はずまたその解明を王にしめすこと能はざりければ ベルシヤザル
 王おほいに思ひなやみてその顔色を失へりその大臣等もまた驚き懼れたり
 一〇 時に太后王と大臣等の言を聞てその酒宴の室にいりきたり太后すなはち陳て言ふ願くは王長壽かれ汝心
 二 に思ひなやむ勿れまた顔色を失ふにおよばず 汝の國に聖神の靈のやどれる一箇の人あり汝の父の代に彼聰明
 了知および神の智慧のごとき智慧あることを顯せり汝の父ネブカデネザル王すなはち汝の父の王彼を立て博士
 三 法術士カルデア人卜筮師等の長となせり 彼はダニエルといへる者なるが王これにベルテシヤザルといふ名
 を與へたり彼は心の殊勝たる者にて了知あり知識ありて能く夢を解き隱語を解き難問を解くなり然ばダニエルを

召されよ彼その解明をしめさんと

一三 是においてダニエル召れて王の前に至りければ王ダニエルに語りて言ふ汝は吾父の王がユダより曳きたり

一四 シユダの俘囚人なるそのダニエルなるか 我聞になんぢの裏には神の靈やどりをりて汝は聰明了知および非凡

一五 の智慧ありと云ふ 我智者法術士等を吾前に召よせてこの文字を讀しめその解明を我にしめさせんと爲たれど

一六 も彼らはこの事の解明を我にしめすことを得ず 我聞に汝は能く物事の解明をなしかつ難問を解くと云ふ然ば

汝もし能くこの文字を讀みその解明を我に示さば汝に紫の衣を衣せ金の素を汝の頸にかけさせて汝をこの國の

第三の牧伯となさんと

一七 ダニエルこたへて王に言けるは汝の賜物は汝みづからこれを取り汝の餽物はこれを他の人に與へたまへ然

一八 ながら我は王のためにその文字を讀みその解明をこれに知せてまつらん 王よ至高神汝の父ネブカデネザ

一九 ルに國と權勢と榮光と尊貴を賜へり 彼に權勢を賜ひしによりて諸民諸族諸音みな彼の前に慄き畏れたり彼は

二〇 その欲する者を殺しその欲する者を活しその欲する者を上げその欲する者を下しとなり 而して彼心に高ぶり

二一 氣を剛愎にして驕りしかばその國の位をすべりてその尊貴を失ひ 逐れて世の人と離れその心は獸のごとくに

二二 成りその住所は野馬の中であり牛のごとくに草を食ひてその身は天よりの露に濡たり是のごとくにして終に彼は

二三 至高神の人間の國を治めてその意のまゝに人を立たまふといふことをしるにいたれり ベルシヤザルよ汝は

二四 彼の子にして此事を盡く知るといへども猶その心を卑くせず 却つて天の主にかひて自ら高ぶりその家の

器皿を汝の前に持きたらしめて汝と汝の大臣と汝の妻妾等それをもて酒を飲み而して汝は見ことも聞ことも知こ

イ但五・一一、一二 二但二六 へ耶二七、七但三・四 リ但四・三二 三六・一一
ロ但五・七八 亦但二・三七、三八、 ト但四・三〇、三七 又但四・一七、二五 ヲ但五・三、四
ハ但五・七 四・一七、二二、二五 チ出二八・一一 九代下三三・二三、 ワ時一一五・五六

カ耶一〇・二三
ヨ伯三一・六 詩六二
九 耶六・三〇
タ摩二・二二 但五・
三二、九・一 ツ耶五・三二、三九、
レ但六・二八 五七 五七
ネ但九・一
ナ帖一・一
ラ但五・二二

ム傳四・四

ともあらぬ金銀銅鐵木石の神を讃頌ふることを爲し汝の生命をその手に握り汝の一切の道を主どりたまふ神を

崇むることをせず 是をもて彼の前よりこの手の末いできたりてこの文字を書るなり

その書る文字は是のごとしメネ、メネ、テケル、ウバルシン その言の解明は是のごとしメネ(數へ

たり)は神汝の治世を數へてこれをその終に至らせしを謂なり テケル(秤れり)は汝が權衡にて秤られて汝の

重の足らざることの顯れたるを謂なり ペレス(分たれたり)は汝の國の分たれてメデアとベルシヤに與へら

るゝを謂なり

是においてベルシヤザル命を降してダニエルに紫の衣を着せしめ金の鏈をこれが頸にかけさせて彼は

國の第三の牧伯なりと布告せり

カルデヤ人の王ベルシヤザルはその夜の中に殺され メデア人ダリヨスその國を獲たり此時ダリヨスは

六十二歳なりき

第六章

ダリヨスはその國に百二十人の牧伯を立てることを善とし即ちこれを立て全國を治理しめ また

彼らの上に監督三人を立てたりダニエルはその一人なりき是はその州牧をして此三人の前にその職を述

しめて王に損失の及ぶこと無らしめんためなりき 是に於て王は心の殊勝たる者にしてその他の監督および州牧

等に勝りたれば王かれを立て全國を治めしめんとせり 是に於てその監督と州牧等國事につきてダニエルを訟ふる隙を得んとしたりしが何の隙をも何の咎をも

見いだすことを得ざりき其は彼は忠義なる者にてその身に何の咎もなく何の過失もなかりければなり 是に

七六 おいてその人々言けるはこのダニエルはその神の例典について之が隙を獲にあらざればついにこれを訟ふるに由なしと
 六 すなはちその監督と州牧等王の許に集り來りて斯王に語りダリヨス王よ願くは長壽かれ 國の監督

將軍州牧伯方伯等みな相議りて王に一の律法を立て一の禁令を定めたまはんことを求めんとす王よその事は是の如し即ち今より三十日の内は唯汝にのみ願事をなさしめ若汝をおきて神または人にこれをなす者あらば凡て

八 獅子の穴に投いれんといふ是なり 然ば王よねがはくはその禁令を立てその詔書を認めメデアとペルシヤの廢ることなき律法のごとくに之をして變らざらしめたまへと 王すなはち詔書をしたゝめてその禁令を出せり

九 茲にダニエルはその詔書を認めたることを知りて家にかへりけるがその二階の窓のエルサレムにむかひて開ける處にて一日に三度づつ膝をかゝめて禱りその神に向て感謝せり是はその時の前よりして斯なし居たればなり

一〇 斯りしかばその人々馳よりてダニエルがその神にむかひて禱りかつ求めをるを見あらはせり 而して彼ら進みきたり王の禁令の事につきて王に奏上して言けるは王よ汝は禁令をしたゝめ出し今より三十日の内には只な

一三 定めたまへるならずやと王こたへて言ふ其事は眞實にしてメデアとペルシヤの律法のごとく廢べからざる者なり 彼らまた對へて王の前に言けるは王よユダの俘擄人なるダニエルは汝をも汝の認め出し給ひし禁令をも願み

一四 ずして一日に三度づつ祈禱をなすなりと 王この事を聞てこれがために大に愁ひダニエルを救はんと心を用ひ即ちこれを拯げんと力をつくして日の入る頃におよびければ 其の人々また王の許に集ひきたりて王に言ける

一五 は王よ知りたまへメデアとペルシヤの律法によれば王の立たる禁令または法度は變べからざる者なりと

イ尼二・三 但三・四、 但六・二二、一五 二時五五・二七 徒二 水但三・八
 六・二二 王上八・四四、四八 一・二二、一五、三 へ但六・八 利可六・二六
 口帖一・一九、八・八 詩五・七 拿二・四 一・一〇・九 卜但一・六、五・一三 又但六・八

ル哀三・五三
ヲ太二七・六六
ワ但二・一
カ但三・一五
ヨ但二・四
タ但三・二八
レ來二一・三三
ソ來二一・三三
ツ中一九・一九
ネ帖九・一〇
申二四
二六
王下一四・六
ナ但四・一
ラ但三・二九
ム詩九九・一
ウ但四・三四
半但二・四四
但四・
ノ但四・三
三、三四
七、一四、
二七
路一・三三

一六 是において王命を下しければダニエルを曳きたりて獅子の穴に投いたり王ダニエルに語りて言ふ願くは

一七 汝が恒に事ふる神汝を救はんことをと 時に石を持ちたりてその穴の口を塞ぎければ王おのれの印と大臣等の

一八 印をもてこれに封印をなせり是ダニエルの處置をして變ることなからしめんためなりき 斯て後王はその宮に

かへりけるがその夜は食をなさずまた嬪等を召よせずして全く寝ることをせざりき

一九 而して王は朝まだきに起いでてその獅子の穴に急ぎいたりしが 穴にいたりける時哀しげなる聲をあげ

二〇 してダニエルを呼りすなはち王ダニエルに言けるは活神の僕ダニエルよ汝が恒に事ふる神汝を救ふて獅子の害を免

二一 れしむることを得しや ダニエル王にいひけるは願くは王長壽かれ 吾神その使をおくりて獅子の口を閉

二二 させたまひたれば獅子は我を害せざりき其は我の辜なき事かれの前に明かなればなり王よ我は汝にも悪しき事を

二三 なさざりしなりと 是において王おほいに喜びダニエルを穴の中より出せと命じければダニエルは穴の中より

二四 出されけるがその身に何の害をも受をらざりき是は彼おのれの神を頼みたるによりてなり

二五 かくて王また命を下しかのダニエルを譏奏せし者等を曳きたらせて之をその妻子とともに獅子の穴に投い

二六 れしめたるにその穴の底につかざる内に獅子はやくも彼らを攫みてその骨までもごとく咬碎けり

二七 是においてダリヨス王全世界に住る諸民 諸族 諸音に詔書を頒てり云く願くは大なる平安なんぢらにあ

二八 今我詔命を出す我國の各州の人みなダニエルの神を畏れ敬ふべし是は活神にして永遠に立つ者またその

二九 國は亡びずその權は終極まで續くなり 是は救を施し拯をなし天においても地においても休徴をほどこし奇

三〇 蹟をおこなふ者にてすなはちダニエルを救ひて獅子の力を免れしめたりと

二八 このダニエルはダリヨスの世とベルシヤ人クロスの世においてその身榮えたり

第七章

一 バビロンの王ベルシヤザルの元年にダニエルその牀にありて夢を見腦中に異象を得たりしが即ちその夢を記してその事の大意を述べ
二 ダニエル述て曰く我夜の異象の中に見てありしに四方の

三 天風大海にむかひて烈しく吹きたり
四 四箇の大なる獸海より上りきたれりその形はおのおの異なり
五 第一

六 のは獅子の如くにして鷲の翼ありけるが我見てをりしに是はその翼を抜とられまた地より起され人のごとく足に

七 て立せられ且人の心を賜はれり
八 第二の獸は熊のごとくなりき是はその體の一方を擧げその口の齒の間に三の

九 脇骨を啣へ居けるが之にむかひて言る者あり曰く起あがりて許多の肉を食へと
十 その後に我見しに豹のごとき

十一 獸いでたりしがその背には鳥の翼四ありこの獸はまた四の頭ありて統轄權をたまはれり
十二 我夜の異象の中に

十三 見しにその後第四の獸いでたりしが是は畏しく猛く大に強くして大なる鐵の齒あり食ひかつ咬碎きてその殘餘

十四 をば足にて踏つけたり是はその前に出たる諸の獸とは異なりてまた十の角ありき
十五 我その角を考へ觀つゝあり

十六 けるにその中にまた一箇の小さい角出きたりしがこの小さい角のために先の角三箇その根より抜おちたりこの小さい角

十七 には人の目のごとき目ありまた大なる事を言ふ口あり

十八 我觀つゝありしに遂に寶座を置列ぶるありて日の老たる者座を占めたりしがその衣は雪のごとくに白くそ

十九 の髪の毛は漂潔めたる羊の毛のごとし又その寶座は火の焰にしてその車輪は燃る火なり
二十 而して彼のの前より一道

二十一 の火の流わきいづ彼に仕ふる者は千々彼の前に侍る者は萬々審判すなはち始りて書を開けり
二十二 その角の大なる

イ但二・二一 へ申二八・四九 母後 丁但八・八、二二 九但七・二〇、二一、 一〇 結一・一五、一六 六八・一七 來二二
ロ但一・二二 一・二三 耶四・七、 一 二四、八・九 二 詩九〇・二 但七・ 三 詩五〇・三、九七・三 一〇 二二 歌五・一一
ハ民二・六 歷三・七 一三、 四八・四〇 一九、二三 四 歌九・七 一三、二二 一 賽三〇・三三、六六 六 歌二〇・四、一二
ニ但二・八 結一七・三 哈一・八 又但二・四一 歌一三 一 詩一三・三 但七・ 夕 詩一〇四・二 歌一 一 一五
ホ 歌二・三一 一 一 二 但二・三九 一 一 二五 歌一三・五 一 一 四 一 一 王上三三・一九 詩

二 たるかの二の角ある牡羊はメデアとペルシヤの王なり 三 またかの牡山羊はギリシヤの王その目の間の大なる角
 三 はその第一の王なり 三 またその角をれてその代に四の角生じたればその民よりして四の國おこらん然ど第一の
 三 者の權勢には及ばざるなり 三 彼らの國の末にいたり罪人の罪貫盈におよびて一人の王おこらんその顔は猛惡に
 三 して巧に詭譎を言ひ 三 その權勢は熾盛ならん但し自己の能力をもて之を致すに非ずその毀滅ことを爲は常なら
 三 ず意志を得て事を爲し權能ある者等と聖民とを滅さん 三 彼は機巧をもて詭譎をその手に行ひ遂げ心にみづから
 三 高ぶり平和の時に衆多の人を打滅しまた君の君たる者に敵せん然ど終には人手によらずして滅されん 三 前に告
 三 たる朝夕の異象は眞實なり汝その異象の事を秘しおけ是は衆多の日の後に有べき事なり 三 是において我ダニエ
 三 ル疲れはて、數日の間病わづらひて後興いでて王の事務をおこなへり我はこの異象の事を案ひて駭けり人もまた
 三 これを曉ることを得ざりき

第九章

一 メデア人アハシユエロスの子ダリヨスがカルデア人の王とせられしその 元年 すなはちその
 二 世の 元年に我ダニエル、エホバの言の預言者エレミヤにのぞみて告たるその年の數を書によりて

曉れり即ちその言にエルサレムは荒て七十年を経んとあり

三 是において我面を主エホバに向け斷食をなし麻の衣を着灰を蒙り祈りかつ願ひて求むることをせり 即

ち我わが神エホバに禱り懺悔して言り嗚呼大にして畏るべき神なる主自己を愛し自己の誠命を守る者のために契
 約を保ち之に恩恵を施したまふ者よ 我等は罪を犯し悖れる事を爲し惡を行ひ叛逆を爲して汝の誠命と律法を

- イ但八・五 三六
- ロ但八・三 三六
- ハ但八・八、一、二、四 三六
- ニ但八・六 三六
- ヘ但一七・一三、一七 三六
- ト但八・二二、一一、 三六
- チ但七・二五、八・一〇 三六
- リ但一・二二、三三、 三六
- ニ但二八・五〇 三六
- ヘ但一七・一三、一七 三六
- カ結一・二、二七 但八・一六
- 一〇・一四、一一、 三六
- 四、九、九、二二、一〇 三六
- 六、二、八、一〇、 三六
- ツ代下三六・二二 耶
- 二五・一一、一二、 三六
- 二九・一〇 三六
- タ但六・二、三 三六
- ネ尼一・四 耶二九
- 一、二、三、 但六
- 一〇 雅四・八、九、 三六
- 三三、三四 詩一〇
- 六、六 賽六四・五、 三六
- 六、七 耶一四・七 三六
- 但九・一五 三六
- 王上八・四七、四八 三六
- 尼一・六、七、九、 三六
- 三三、三四 詩一〇 三六
- 六、六 賽六四・五、 三六
- 六、七 耶一四・七 三六
- 但九・一五 三六

一七 の悪のためにエルサレムと汝の民は我らの周圍の者の笑柄となりたればなり 然ば我らの神よ僕の禱と願を

一八 聽たまへ汝は主にいませばかの荒をる汝の聖所に汝の面を耀かせたまへ 我神よ耳を傾けて聽たまへ目を啓

きて我らの荒蕪たる状を觀汝の名をもて稱へらるゝ邑を觀たまへ我らが汝の前に祈禱をたてまつるは自己の公義

一八 によるに非ず唯なんぢの大なる憐憫によるなり 主よ聽いれたまへ主よ赦したまへ主よ聽いれて行ひたまへ

この事を遅くしたまふなかれわが神よ汝みづからのために之をなしたまへ其は汝の邑と汝の民は汝の名をもて

稱へらるればなり 我かく言て祈りかつわが罪とわが民イスラエルの罪を懺悔し我神の聖山の事につきてわが神エホバのまへ

二〇 に願をたてまつりをする時 即ち我祈禱の言をのべをする時我が初に異象の中に見たるかの人ガブリエル迅速に飛

二一 て晩の祭物を獻ぐる頃我許に達し 我に告げ我に語りて言けるはダニエルよ今我なんぢを教へて了解を得せし

二二 めんとて出きたれり 汝が祈禱を始むるに方りて我言を受たれば之を汝に示さんとて來れり汝は大に愛せらる

二三 る者なり此言を了りその現れたる事の義を曉れ 汝の民と汝の聖邑のために七十週を定めおかる而して悪を抑へ罪を封じ愆を贖ひ永遠の義を携へ入り異象

二四 と預言を封じ至聖者に膏を灌がん 汝曉り知べしエルサレムを建なほせといふ命令の出づるよりメシヤたる

二五 君の起るまでに七週と六十二週ありその街と石垣とは擾亂の間に建なほされん その六十二週の後メシヤ

二六

イ哀二・一五、一六 一九 九詩三二・五 祭六五 レ太二四・一五 路一・ 半約一・四一、四・二五
口詩四四・一三、一四、 二二四 ソ民一四・三四 結四 三五 約一・四一 ノ祭五五・四
七九・四 ト出三・七 詩八〇・ 六六 來九・一一 オ尼四・八、一六一
八但九・一九 約一六 一四 七但八・二八、一〇・ ツ哀四・二二 ム但九・二三 太二四 八、六・一五
・二四 一四 一〇、一六 一〇、一五 一五、七・一 尼二 四六
二哀五・一八 一四 一〇、一六 一〇、一五 一五、七・一 尼二 四六
ホ民六・二五 詩六七 又詩七九・九、一〇、 三三、五、六 來九・ 一、三、五、六、八
・一、八〇・三七、 一〇二・一五、一六 夕但一〇・一一、一九 一二 歌一四・六 二、三、五、六、八
マ約一四・三〇
ケ太二二・七

二二 我は戦ひて立ち 彼すなはち我に言けるはダニエルよ懼るゝ勿れ汝が心をこめて悟らんとし汝の神の前に身を

二二 我は戦ひて立ち 彼すなはち我に言けるはダニエルよ懼るゝ勿れ汝が心をこめて悟らんとし汝の神の前に身を

二二 我は戦ひて立ち 彼すなはち我に言けるはダニエルよ懼るゝ勿れ汝が心をこめて悟らんとし汝の神の前に身を

二二 我は戦ひて立ち 彼すなはち我に言けるはダニエルよ懼るゝ勿れ汝が心をこめて悟らんとし汝の神の前に身を

二二 我は戦ひて立ち 彼すなはち我に言けるはダニエルよ懼るゝ勿れ汝が心をこめて悟らんとし汝の神の前に身を

二二 我は戦ひて立ち 彼すなはち我に言けるはダニエルよ懼るゝ勿れ汝が心をこめて悟らんとし汝の神の前に身を

二二 我は戦ひて立ち 彼すなはち我に言けるはダニエルよ懼るゝ勿れ汝が心をこめて悟らんとし汝の神の前に身を

二二 我は戦ひて立ち 彼すなはち我に言けるはダニエルよ懼るゝ勿れ汝が心をこめて悟らんとし汝の神の前に身を

二二 我は戦ひて立ち 彼すなはち我に言けるはダニエルよ懼るゝ勿れ汝が心をこめて悟らんとし汝の神の前に身を

二二 我は戦ひて立ち 彼すなはち我に言けるはダニエルよ懼るゝ勿れ汝が心をこめて悟らんとし汝の神の前に身を

二二 我は戦ひて立ち 彼すなはち我に言けるはダニエルよ懼るゝ勿れ汝が心をこめて悟らんとし汝の神の前に身を

二二 我は戦ひて立ち 彼すなはち我に言けるはダニエルよ懼るゝ勿れ汝が心をこめて悟らんとし汝の神の前に身を

二二 我は戦ひて立ち 彼すなはち我に言けるはダニエルよ懼るゝ勿れ汝が心をこめて悟らんとし汝の神の前に身を

二二 我は戦ひて立ち 彼すなはち我に言けるはダニエルよ懼るゝ勿れ汝が心をこめて悟らんとし汝の神の前に身を

二二 我は戦ひて立ち 彼すなはち我に言けるはダニエルよ懼るゝ勿れ汝が心をこめて悟らんとし汝の神の前に身を

二二 我は戦ひて立ち 彼すなはち我に言けるはダニエルよ懼るゝ勿れ汝が心をこめて悟らんとし汝の神の前に身を

第一章

一 我はまたメデア人ダリヨスの元年にかれを助け彼に力をそへたる事ありしなり
二 我いま眞實を汝に示さん視よ此後ペルシヤに三人の王興らんその第四の者は富ること一切の
三 者に勝りその富強の大なるを恃みて一切を激發してギリシヤの國を攻ん また一箇の強き王おこり大なる威權

イ 一・一七 八 一〇・二〇 七
ロ 九・三、四、二二、 二 一〇・二二、一 六 四九・一 二
二三 徒 一〇・四 九 九 二 二八
ハ 八・二六、一〇・一 七 八・二五 二
ヘ 八・二六、一〇・一 九 一〇・一〇 耶 一 七 五・三
ト 一〇・九、八、二八 九 九 七 九 九 七 七、八、五

ソ但八・四、一一・ 未但八・二二
一六、三六 未但一一・二〇 ム但一一・七
ツ但八・八 未但八・八但九・二六 未但八・四、七、一一・ 三、三六

四 振ふて世を治めその意のまゝに事を爲ん 但し彼の正に旺盛なる時にその國は破裂して天の四方に分れん其

は彼の兒孫に歸せず又かれの振ひしほどの威權あらず即ち彼の國は拔とられて是等の外なる者等に歸せん

五 南の王は強からん然どその大臣の一人これに逾て強くなり威權を振はんその威權は大なる威權なるべし

六 年を経て後彼等相結ばん即ち南の王の女子北の王に適て和好を圖らん然どその腕には力なしまたその王および

その腕は立ことを得じこの女とこれを導ける者とこれを生せたる者とこれに力をつけたる者はみな時におよびて

付されん

七 斯て後この女の根より出たる芽興りて之に代り北の王の軍勢にむかひて來りこれが城に打りて之を攻て

九八 勝を得 之が神々鑄像および金銀の貴き器具をエジプトに携へさらん彼は北の王の上に立て年を重ねん 彼

南の王の國に打入ことあらん然ど自己の國に退くべし

二〇 其の子等また憤激して許多の大軍を聚め進みきたり溢れて往來しその城まで攻寄せん 是において南の

王大に怒り出きたりて北の王と戦ふべし彼大軍を興してこれに當らん然れどもその軍兵はこれが手に付されん

二二 大軍すなはち興りて彼心に高ぶり數萬人を仆さん然れどもその勢力はこれがために増さじ また北の王は

退きて初よりも大なる軍兵を興し或時すなはち或年數を経て後かならず大兵を率ゐ莫大の輜重を備へて攻來らん

二四 是時にあたりて衆多の者興りて南の王に敵せん又なんぢの民の中の奸惡人等みづから高ぶりて事を爲しつひ

二五 に預言をして應ぜしめん即ち彼らは自ら仆るべし 茲に北の王襲ひきたり壘を築きて堅城を攻おとさん南の王

二六 の腕はこれに當ることを得じ又その撰拔の民もこれに當る力なかるべし 之に攻きたる者はその意に任せて

一七 事をなさんその前に立ことを得る者なかるべし彼は美しき地に到らんその地はこれがために荒さるべし 彼そ
 の全國の力を盡して打入んとその面をこれに向べけれどまたこれと和好をなして婦人の女子を之に與へん然るに
 一八 その婦人の女子は之がために身を滅すに至り何事をも成あたはず毫も彼のために益する所なかるべし 彼また
 その面を島々にむけて之を多く取らん茲に一人の大將ありて彼が與へたる耻辱を雪ぎその耻辱をかれの身に與へ
 一九 かへさん かくて彼その面を自己の國の城々に向ん而して終に躓き仆れて亡ん
 二〇 彼に代りて興る者は榮光の國に人を出して租税を征斂しめん但し彼は忿怒にも戰鬥にもよらずして數日の
 二一 内に滅亡せん また之にかはりて起る者は賤まるゝ者にして國の尊榮これに歸せざらん然れども彼不意に來り
 二二 巧言をもて國を獲ん 洪水のごとき軍勢かれのために押流されて敗れん契約の君たる者も然らん 彼は之に
 二四 契約をむすびて後詭詐を行ひ上りきたりて僅少の民をもて勢を得ん 彼すなはち不意にきたりてその國の膏腴
 なる處に攻いりその父もその父の父も爲ざりしところの事を行はん彼はその奪ひたる物掠めたる物および財寶を
 二五 衆人の中に散すべし彼は謀略をめぐらして堅固なる城々を攻取べし時の至るまで斯のごとくならん 彼はその
 勢力を奮ひ心を勵まし大軍を率ゐて南の王に攻よせん南の王もまた自ら奮ひ甚だ大なる強き軍勢をもて迎へ戦
 二六 はん然ど謀略をめぐらして攻るが故にこれに當ることを得ざるべし すなはち彼の珍膳に與り食ふ者彼を倒さ
 二七 んその軍兵溢れん打死する者衆かるべし 此二人の王は害をなさんと心にはかり同席に共に食して詭詐を言ん
 然どもその志ならざるべし定まれる時のいたる迄は其事終らじ
 二八 彼は莫大の財寶をもちて自己の國に歸らん彼は聖約に敵する心を懷きて事をなし而してその國にかへらん

イ番一・五 ハ代下二〇・三 三三六結二六・二二 ト但一・一〇 リ但八・二五 四〇、八・一九
 口但八・九、一一 二但九・二六 へ但七・八、八・九、 チ但八・一〇、一一、 又但一・一〇、二二 又但一・二九、三五、
 四一、四五 亦但二〇・八 詩三七 二二、二五 二五 九但一・二九、三五、

本四二二・四
 十何一四・九 歌九・ 約七・一七、八・ 三三一
 二〇、三三・一一 四七、一八・三七 フ但一一・九
 一三・九 一三・三五 一三・三五 一三・三五 一三・三五 一三・三五 一三・三五 一三・三五
 一三・九 一三・三五 一三・三五 一三・三五 一三・三五 一三・三五 一三・三五 一三・三五
 エ詩一・五

九 も曉さとることを得えざりき我われまた言いりわが主しゆよ是これ等の事ことの終はは何なにぞやと 彼かれいひけるはダニエルよ往ゆけ此この言ことばは終は極を

〇 の時ときまで秘ひしかつ封ふうじ置おくべし 衆おほく多ものの者もの淨きよめられ潔いさぎよくせられ試こころみられん然されど悪あしき者ものは悪あしき事ことを行おこなはん悪あしき

二 者ものは一人ひとりも曉さとること無なるべし然されど穎きと悟ちもの者ものは曉さとるべし 常じやう供くの者ものを除のき殘あらず暴にくむ可べき惡もの者ものを立たて時ときよりして一千せん二百ひやく九

三三 十日じちあらん 待まちをりて一千せん三百ひやく三さん十五ご日にちに至いたる者ものは幸さい福はひなり 汝なんぢ終はりに進すすみ行ゆけ汝なんぢは安やす息みに入いり日ひの終はりに

至いたり起たちて汝なんぢの分ぶんを享うけん

ダニエル書 をはり